

放送大学鳥取同窓会会報

麒麟きりん

第3号

編集：編集委員会
発行日：2015年6月1日
発行人：西本 弘之
〒680-0845
鳥取市富安2-138-4
放送大学鳥取学習センター内

放送大学の二回目卒業研究テーマについて

西本 弘之

平成27年3月NHKホールで行われた放送大学学位記授与式に出席しました。放送大学2回目の卒業になりました。1回目は、平成14年9月に卒業しました。当時は、仕事中心の生活で、学位記授与は、湖山の学習センターでの授与のみでNHKホールには行くことがありませんでした。

再入学は、西田元センター長から同窓会を作りたいので協力をしてほしいとの申し出で、同時に再入学はどうかとの勧めで再入学を考えました。私のもともとの仕事は、鳥取県産業技術センターで技術分野の研究開発を行うことが本務で、仕事の内容に近い「産業と技術専攻」を卒業しました。再入学は違った分野を勉強しようと考え、「人間と文化コース」としました。

二回目の卒業をめざすにあたって、漠然と卒業研究をしようと考えていました。研究テーマの選定は、長い期間茶道をしており、茶会の準備をしている時に、茶花を入れるのにある比率があるのではないかと考えたことがありました。そこで、この事象を調べようと考え、卒業研究テーマは、「茶花における美しさの規則性解析に関する研究」としました。

「なぜ茶花なのか。」このテーマの内容をもう少し説明すれば、3年前の茶会の準備をしているときに、籠の花入に茶花を入れるときに比率に気がつきました。ある部分の比率を2.5倍で入れれば良さそうではないか。調べてみると、黄金比は一般には、 $1:1.618$ ですが、 1.618 の2乗は 2.618 です。2.5に近い値であることが卒業研究のスタートでした。

日頃から、茶道や禅的な考え方は、先端的な技術の向こう側にあるように感じています。東洋の禅と西洋の科学について明解に述べている人がいます。明治から戦後まで生き抜き、はじめて世界に禅を広めた鈴木大拙によると、「西洋の科学的な、分析的なものの考え方は、対立を生みやすい。西洋の科学は、分けて分けて考えている。」

「一方で、東洋思想には、人々を融合させ本来の意味で人間に自由をもたらすすぐれた世界観がある。」と述べています。

実際に、茶道や関連の文化的な分野を科学的な視点で見ると、面白い現象がたくさんあることに気づきました。前述の鈴木大拙による物事を分けて考えることは、元々は私の仕事で、鳥取県産業技術センターで電気・電子・機械分野の研究を

するものに近い手法でした。今回の卒業研究の解析に使った「黄金比、白銀比、青銅比」という比率は、ほかのものでも多く使われています。

最後に、今回の人間の文化的なことを科学的な分野・視点で解析する黄金比を使った解析技術は、入り口のようなのです。卒業研究の楽しさも知りました。今後とも研究を続けるために、再々入学をして研究を続けることとしました。

今後ともよろしく願いいたします。

学位記授与式を終えて

三ッ國全代

平成27年3月21日、東京都渋谷区のNHKホールで行われた学位記授与式に参加してきました。初めてのNHKホール、初めての大学の卒業式、そして初めての袴姿。年齢なんて関係ない、と学生であることを誇りに思う一日でした。

考えてみると、放送大学では、学生の間は、インターネットやテレビ、ラジオを相手に一人で勉強することが多いので、友達も作りにくく、なかなか大学に慣れ親しむことが難しいように思います。私自身も卒業単位を取得して学位記授与式を終えて、初めて多くの先生や仲間と直接触れあう機会をいただき、親しみがわいてきました。卒業をきっかけに少しずつ自分の顔や名前を覚えてもらい、やっと放送大学の一員として認められたような気がしています。つまり卒業して初めて楽しさがわかってくる大学ではないのでしょうか。今回の学位記授与式で初めて出会った新しい友達もできましたが、再入学しなければ再会できる機会も得られません。また面接授業で会いたいね、と話しました。だから「卒業」ではなくて「再出発」なのかなとも思います。

それにしても、NHKホールで合唱してから、放送大学の学歌が頭から離れません。けっこう完璧に歌えるのが最近の特技です。

「第3回中国四国地区放送大学同窓会交流会」に参加して

鳥取同窓会副会長 清水道代

会期：平成27（2015）年5月9日（土）・10日（日）

会場：放送大学愛媛学習センター

主催：放送大学愛媛同窓会

この度、鳥取同窓会西本会長の代理として、第3回中国四国地区放送大学同窓会交流会（以下「交流会」という）に出席しましたので、ご報告致します。

わたしは、愛媛学習センターへ初めて行きました。愛媛学習センターは、愛媛大学の構内にあり、大変立派な建物でした。センターから「松山城」が見えました。

一日目は、受付を済ませた後、午後1時から交流会が開催されました。参加者は、放送大学同窓会連合会から会長代行の矢野様を始め4名と愛媛同窓会会長西川様を含めた10名、そして愛媛同窓会を除く中国四国各地区同窓会代表9名の合計24名でした。

はじめに愛媛学習センター所長、愛媛同窓会会長のご挨拶があり、愛媛同窓会副会長から日程説明がありました。その後、会場を移して、公開講演を聴講しました。

公開講演は「四国遍路の歴史と世界遺産への道 - 空海と弘法大師の足跡 - 」という演題で、講師は愛媛大学教授胡（エベス）光教授でした。この4月に設立された「四国遍路・世界の巡礼研究センター（愛媛大学法文学部所属）」やそこでの研究、四国遍路を世界遺産に登録するための研究及び活動、四国遍路の歴史的変遷や特徴などについて解説を聞きました。講演の後には活発な質問もあり、この分野の関心の高さを感じました。

休憩の後、愛媛同窓会理事稲谷吉彦氏の学士論文「再生可能エネルギーを利用した発電の研究」の発表がありました。稲谷理事は、この度、愛媛学習センター初の名誉会員になられたとのことで、頭が下がりました。

その後、同窓会連合会と中国四国地区同窓会との情報交換会に入りました。ここでは、各地区同窓会の活動や悩み、意見交換が行われました。

鳥取が一番だったため、わたしは大変緊張していました。また、他センターは活動をまとめた文書を配布されていましたが、鳥取は準備していませんでした。持参した総会資料に基づき、次のように発言しました。

- ① 鳥取同窓会は平成23年4月に発足し、同27年4月現在会員が51名である。
- ② そのうち、3分の1近くが学友会員（現学生）である。
- ③ 主な活動は、平成24年から始まった文化祭「放たまつり」で、研究発表・作品展示・上演などを行っている。
- ④ 学位記授与式の後、「卒業を祝う会」を行っている。
- ⑤ 会報誌「麒麟」3号を夏までに発行予定である。
- ⑥ 同窓会員かつ学友会員（同窓会員かつ学生）であるメンバーが多いので、学友会と共催事業が多く、同窓会独自の活動は以上のほか特にない。
- ⑦ 各同窓会の取組を知りたい。

以上

質問はありませんでした。

次に、島根、岡山、広島、山口、香川、徳島、高知と続き、最後は開催地の愛媛でした。

各同窓会のお話を聞きながら、それぞれ多様な活動を行い、同窓会活動に真摯に取り組み、発生する数々の問題に行動と知恵で対処されていることを知り、発足から4年の鳥取同窓会は先輩同窓会に学ぶことが多く、情報交換会では貴重な体験をしました。

この後、会場を移して懇親会が開催されましたが、欠席しました。

二日目は朝から五月晴れでした。愛媛同窓会顧問十亀氏、同理事友近氏の案内でホテルから徒歩にて松山城へ。お二人は松山城のガイドをされており、二班に分かれて

松山城を見学しました。解説を聴き、質問をしながらの見学は、大変有意義でした。

お天気も良く、天守閣からは海が見え、愛媛学習センターの建物も教えてもらって見ることができました。また、参加者の皆さんと放送大学の話、特に鳥取で面接授業を受けられたとのお話を聞いて、大変うれしかったです。さらに、放送大学で学び、それぞれの地域で活動し貢献されながら学び続けている皆さんの姿は、とても印象的でした。

今回、交流会に出席して一番強く印象に残ったのは、世代も経歴も違うけれど、我々は放送大学を通して繋がっている、放送大学の一員であるということです。日頃の「独学」を反省しながら、「共に生き、共に学ぶ」という学歌が頭をよぎりました。

お昼は、愛媛（宇和島）の郷土料理「鯛めし」でした。十亀顧問が隣で愛媛の郷土料理や歴史などいろいろ教えてくださり、楽しいひとときでした。

昼食後、二日間の交流会は無事に終わり、解散。

愛媛同窓会の皆様には、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



第3回中国四国地区放送大学同窓会交流会in愛媛（2015.5.10）

放送大学同窓会の発展を考える

田 中 穰

一言で同窓会と言っても、細かく考えると色々な特長を持っているようだ。

先ず、小学校、中学校、高等学校の同窓会の会員は、略同年齢の卒業生であって、出生地域も大多数の方々は同じであろう。その上、担当教師が多少違っていても、略同じ教材のもとでの教育を受けており、若い年頃に皆が同様な色彩の学習経験を経て卒業している訳である。小学校同窓会の集いが特別に楽しい理由の一つでもであろう。然し卒業後の進路は各人各様であって多岐にわたる人生経験を送ることになると考えられる。会員間の利害関係は殆ど無く純粋な集団に近い。（文章の構築上、便宜

的に1群と呼ぶ事とする)

次に大学、大学院の同窓会員に就いては如何であろうか。年齢については各人の間で多少の隔たりはあろう。また出身元についても前記1群に比べて大分広範囲であり、学生生活での交際もやや多様性を帯びてくる。特筆すべきは学習の基本が全く異なる点である。大学、大学院では教育を受けるのでは無く、自分で考え創造する能力を養う場所である。従って卒業後の進路も、自家営業であつても官民就職にしても学習した専門性を選択する傾向があり、良い意味での会員間の利害関係はあろう。(前記同様2群と呼ぶ)

扱、本番の放送大学の同窓会員であるが、年齢は恐らく10代から90代或は100代に亘っているかも知れないが、想像を絶して広範囲であることに間違いはなかろう。この様に世代が広範囲と言うことの特長は、会員の経験して来ている環境が凄く多種多様だと言うことである。初めて放送大学を卒業され就職される方、既に就職されていて本学での知識を活用される方、定年退職されてから何らかの目的で本学に入学された方等々、経歴、経験は数えきれない数にのぼり正に経験の宝庫である。1群、2群に比べて、これこそ放送大学同窓会が優位に語れる内容ではなかろうか。具体的にはどの様に活用すれば良いのであろうか。それは同窓会名簿に経歴欄を設け、簡単で良いからそこに、例えば介護サービス、電気通信技師、果樹菜園、銀行員、化学工業技師、セールスマン、特に無し、など各人自由に記載する。そして、現職の方であれば、名簿を見て自分の仕事に関係する方と連絡を取りアドバイスを受けて職務の参考とするとか、老齢の方は名簿掲載内容を見て娯楽の足しにするとか、多様な活用方法が生まれると思う。一時期、名簿の悪用が問われたが、私の経験で恐縮ですが、1群、2群の名簿は5年ごとに更新されておりその都度購入している。同窓会長、学校長の挨拶文も掲載されており特に悪用された例は聞いていない。

まとめ：放送大学同窓会活躍場所の拡大として、同窓会員の豊富な経験を活かす一つの案として名簿の活用を提案しました。

これって変じゃない？ あれこれ

放送大学鳥取学習センター元所長 山内 益夫

- ・時代が進むとともに皆忙しくなるって変じゃない。
例；パソコンの発明は仕事を楽にするはずじゃなかった？
- ・大型店の設置を認めておいて（シャッター街が拡大する）街並み活性化を叫ぶって変じゃない。
- ・寿命（正しくは余命）が延びるにしたがって、年金制度、保険制度が破壊されるのに、寿命が延びるのを是としているってへんじゃない。敬老なんてなんか変じゃない。

個人の命と国民の老化とは別次元の話かも。

種の寿命が長いほど種の絶滅は早いとも言われている。

- 不労所得者とは昔は資産家のことであった。今は人口の4割が不労所得者で、国の借金はネズミ算で増えていく。でも敬老の日はなくならないって変じゃない。
- 行政は国民、住民の生活が円滑に動くようにするためにあるんだ。
窓口が法律、条例を盾にいろいろ“だめ”と言うのは変じゃない。
法律にしろ、条例にしろ、当然解釈がある。担当者は住民の要望をかなえるべく、法律、条例を如何に解釈して答えるかが本務のはず。
人としての解釈をしないならそこにいる必要はなく、コンピューターを置いておけばすみますよ。
- 温暖化とか富栄養化という日本語は変じゃない。
温暖も富も好ましい状況をさす言葉のはず。熱帯化とか過栄養化と言えば納得できるのに。
- この前まで地方分権が叫ばれていたのに、今はなぜか地方創生と置き換わっている、なにか変じゃない。
権限は国が持ち、お金だけを地方へばら撒くってことかしら。
- 核拡散防止条約って変じゃない。
基本核保有国が作った条約(?)を未保有国に調印させてんだらう。後発の保有国は使用するかもしれないが、既保有国は使用しないという論理は何処から出てくるんだらう。一番沢山持ってる国は使用国でもあるんだし。
- 預貯金に利子を払わなくて良い、けど、借金には利子をつけなくてはいけないというのは、変じゃない。
そういうことを決める国は金融的には破綻しているし、巷ではそういうのは詐欺って言うんだって。
- あなたの宅地に自転車が放置されています。さてどうしますか。放置された被害者が処分しなくてはならないという条例って変じゃない。
- 放送大学の階の駐車場には放置自転車を回収しますという内容の文言を書いたトラックが留めてあります。そこに書かれた電話番号に連絡したら、市の所有地に放置された自転車だけを回収するという返事でした。啞然。

最近の出来事

塩崎 信一

最近の出来事ですが、鳥取より夜行バスで明方着き、初めて平成26年12月6日(土)に2時間以上並んで秋季皇居乾通り一般公開に参りました。当日、皇居に来られた方は78,700名でした。坂下門より宮内庁庁舎方面へ行き、大手門より出まし

た。明方寒い中に行列し並んだのは初めてです。よく並んだものだと思います。放送大学で勉強を始めて10年以上であります。勉強を始めたのは歳をとってからボケたら困ると考えたからです。自分なりに老化のメカニズムについてはある程度わかってきたつもりです。毎日がチャレンジです。わからないことはすぐ論文を調べます。今年4月に世界的に読まれている経済学のTHOMAS PIKETTYのCAPITAL in the Twenty-First century「21世紀の資本」の英文の本を手に入れました。結論としては格差を作り出す $r > g$ の法則です。700ページの学術書です。これを読むのは大変だ。今では多方面の論文に興味を持っております。

良寛の涙

竹内久満

稀代の名僧・良寛には、
《子供らと手毬つきつつこの里に

遊ぶ春日は暮れずともよし》

など、子どもとの「ふれあい」の中から紡ぎ出された歌や句がたくさんある。

こんな話がある。

《甥っ子の一人が親の言うことを聞かなくて 困り果てた両親が良寛に相談を持ちかけた。良寛は弟の家に三日ばかり逗留したが、これと言ったことは何も語らず、突然「帰る」と言いだした。出立の朝、上り框に腰掛けて草鞋の紐を結んでくれるよう、かの甥っ子に言いつけた。腰を屈めて草鞋を履かせようと差し出した甥の手に、良寛の両眼からはらはらと熱い涙がこぼれ落ちた。》

この無言の戒めによって、甥っ子は改心し、その後は真っ当に生きたという。

子どもの心を感化するのは難しい。



◆◆事務局便り◆◆

☆平成26年「放大まつり（第3回）」開催！

平成26年11月23日、鳥取学習センターにおいて3回目となる「放大まつり」が開催されました。学生、同窓生による和・洋楽器の演奏、絵本、詩の朗読、詩吟吟詠、研究発表、ジビエ料理の試食会、バザーなどが開催されました。また、遠方からの参加者もあり、懐かしい顔がそろい、大いに盛り上がりました。また、会場には、書に親しむ会の作品展示や、絵画・写真の展示、研究ポスター展示もあり、会場を訪れた方々の関心を集めていました。

放大まつりの後の打ち上げでは、同窓生も参加し、和気あいあいとした雰囲気の中で旧交を温められた方もあり、にぎやかに幕を閉じました。



☆新会員紹介（敬称略）

鈴木輝博（「人間と文化」専攻 2015.3 卒業）

尾坂 忠（「人間と文化」専攻 2015.3 卒業）

中尾政晴（2010.4.1～2014.3.31 在籍「生活と福祉」専攻）

よろしくお願ひします！



☆会員状況（平成27年6月5日現在）

一般会員42名 特別会員12名（計54名）

☆平成27年度「放送大学鳥取同窓会定期総会」開催

- ・日時：平成27年4月11日（土）10：30～
- ・場所：放送大学鳥取学習センター 講義室
- ・出席者：24名

定期総会では、平成26年度事業報告、同会計決算報告及び会計監査報告・業務監査報告がなされました。続いて、平成27年度事業計画案と同予算案が提示され、役員改選が行われ、以上、満場一致で承認されました。



☆学友会共催事業について

在学生・教職員の方々との交流・親睦を図ることを目的に、納涼会・忘年会などを企画しています。

鳥取学習センターのホームページ、機関誌「ぷりずむ」をご覧ください。

ご参加、お待ちしております！



☆鳥取同窓会会報誌「麒麟」原稿募集

鳥取同窓会事務局では会報誌「麒麟」の原稿を随時募集しています。会員の皆様の学びの現在・過去・未来、日頃感じていること、エッセイ、論文、詩、自慢



話、ちょっといい話など、形式は問いません。当会に対するご意見、「麒麟」に関するご感想などもお寄せください（1,000文字程度）。
また、鳥取同窓会メーリングリストへの参加もお願いします。

「麒麟」原稿送付先

放送大学鳥取学習センター気付 鳥取同窓会あて
〒680-0845 鳥取市富安 2-138-4
Tel (0857) 37-2351 fax (0857) 37-2352

鳥取同窓会メーリングリスト登録連絡先

鳥取同窓会顧問 若 良 二 E-mail アドレス young-r@ouj.ac.jp

メーリングリストって、なに？

メーリングリスト (mailing list) とは、複数の人に同時に電子メールを配信 (同報) する仕組みのことです。用途としては、特定の話題に関心を持つグループなどで情報交換をする場合に利用されます。メーリングリストの原理は、登録メンバーの電子メールアドレスのリストと、メーリングリストに登録されたメンバー全員のアドレスへ転送するものです。(ウィキペディア一部引用改変)



◆麒麟第3号編集後記◆

「いよいよ」というべきか「とうとう」というべきか、鳥取にシアトル系コーヒー店がオープンしました。同窓生の皆様は、もう行かれましたか？

さて、鳥取同窓会「麒麟」は第3号発行となりました。原稿をお寄せ下さった皆様、ありがとうございます。おかげ様で充実した誌面になりました。珈琲カップを片手に読んでくださっている方もいらっしゃるでしょう。

編集中となる季節は、ちょうどホテルの飛び交う時期で、編集作業に煮詰まった筆者は、気分転換に樗谷公園へ出かけました。鳥取東照宮の奥の闇に飛び交う無数のホテルを見ていると、忙殺される日常をしばし忘れることができました。梢の上の夜空には、街中では見られない数の星も見え、せせらぎとホテルの光、夜空の星に癒されました。

昔の人は、ホテルを集めた光で勉学に励んだそうですが、現代に生きる私たちは、なんと恵まれた環境で勉強できるのでしょうか！

学びで繋がっていく放送大学同窓会。皆様のご協力とご賛同を今後もよろしく願います。

様々な分野でご活躍中の皆様！「熱中症」に気をつけて、これからの季節、元気に過ごしましょう。
(M・S記)